

# 大学ジャーナル

FREE

vol.157 7月号

第29巻3号・通巻157号

大学生になっても読んでほしい

発行所:くらむぼん出版 〒531-0071 大阪市北区中津1-14-2  
TEL06(6372)5372 FAX06(6372)5374  
E-mail KYA01311@nifty.com

大学ジャーナル  
UNIVERSITY JOURNAL  
ONLINE  
http://univ-journal.jp



Highlight

- 04 平和な世界を構築するために  
見えない暴力に気づくことから始めよう  
京都産業大学 国際関係学部教授 クロス 京子先生
- 05 2025年度、神戸大学医学部に、日本初の医療機器開発に  
特化した学科、「医療創成工学科(仮称)」誕生！  
2025年、関大BDS(ビジネスデータサイエンス学部)  
(仮称・設置構想中)からビジネス革新  
見つけようミライ!! いまの自分からなりたい自分へ  
桐蔭横浜大学
- 06 大学ジャーナルオンラインから
- 08 好評連載  
大学ランキングからはわからない大学の実力  
パレスチナ連帯を訴える学生の憂鬱  
教育ジャーナリスト 小林 哲夫さん  
雑賀恵子の書評  
よくわかる一神教  
ユダヤ教、キリスト教、イスラム教から世界史をみる  
佐藤 賢一 集英社文庫、2024年
- 09 社の都の西北から 第6回  
進むか、大学の性的マイノリティ支援  
(学)東北文化学園大学評議員・大学事務局長、  
弊誌編集委員 小松 悌厚(やすひろ)さん  
16歳からの大学論 第41回  
高校生と研究ポスターを作っ  
て気づいたこと大学論  
京都大学 学際融合教育研究推進センター 准教授 宮野 公樹先生
- 10 高等学校「探究」の現場から その3  
高校における「研究倫理」指導  
秋田県立秋田高校 教諭博士(生命科学) 遠藤 金吾さん  
安河内先生から受験生へ提案  
AIを使って今までの3倍のタイパで突破しよう！  
安河内 哲也 情報経営イノベーション学部客員教授  
次号予告  
生成AIの登場と大学・高校の英語教育  
京都大学准教授 金丸 敏幸 VS 現役高校英語教師 南部 久貴
- 11 これまでの大学とは違うけど、  
キラリと光る大学 第1回  
大学の新しい形を求めて  
i情報経営イノベーション専門職大学  
グローバルコミュニケーション×ビジネス×ICTの  
学びの3本柱で、グローバルにイノベーションを  
起こせる人材を育てる  
在学中は、全員に起業のチャンスが  
阿部川 久広 学部長 VS 安河内 哲也 客員教授

大学トップから高校生へのメッセージ

## 創立100周年に向けて 改革を加速する東京都市大学

2029年に創立100周年を迎える東京都市大学。今年1月、新たに学長に就任された野城智也先生は、建築学の新分野であるサステナブル建築を出発点に技術経営分野のイノベーション・マネジメントまで、分野を超越した、独自のアカデミック・キャリアパスを切り拓いてこられました。教員人生をスタートした場所であり、今また学長として戻られた東京都市大学に、どんな未来を託されるのか。イノベーション・マネジメントの視点も加え、これからの日本に求められる人材の育成について、また高校生へのメッセージをお聞きました。



東京都市大学学長  
野城 智也先生

Profile  
1980年東京大学工学部建築学科卒業、1985年東京大学工学系研究科建築学博士課程修了(工学博士)。同年4月より建設省建築研究所研究員。1986年同省住宅局住宅建設課係長などを経て1990年同省建築研究所主任研究員。1991年武蔵工業大学(現東京都市大学)建築学科助教授、1998年東京大学大学院工学系研究科助教授、1999年同学生産技術研究所助教授、2001年同教授、2007年同副所長、2009年同所長、2013年同学副学長、2018年同学価値創造デザイン人材育成研究機構長。2023年東京都市大学総合研究所特任教授、高知県公立大学法人高知工科大学教授。2024年1月から現職。専門分野はサステナブル建築、イノベーション・マネジメント。東京教育大学附属高等学校(現、筑波大学附属高等学校)出身。

# イノベーション創出の 担い手になるために 専門性を縦糸に デザイン思考を横糸に

### 私のアカデミック・ キャリアパス

#### ●武蔵工業大学(現東京都市大学)で 研究者人生の基盤を固める

私は、学部・大学院では建築を専攻しました。探索・試行の末に切り拓いたのはサステナブル建築(※1)という、計画・設計、構造・材料、環境工学という確立された建築学三分野を横串で刺したような分野で、地球環境の持続可能性を損なわない建築・都市の在り方を探究しています。具体的には、国内全体の30~40%を占めるとされる建築に起因するCO<sub>2</sub>などの温室効果ガスの排出をいかに減らすか、また、国全体の資源生産性(※2)を高める観点から、建築・都市を、どのような材料で構成し、どのようにして使いまわしていくべきかなどを研究し、その工学的解決策・緩和策を考察・提案してきました。

サステナブル建築研究の始まりは、1980年代後半。今でこそ、カーボン・ニュートラルという概念は世界中で共有され、建築においてはゼブ(ZEB: Zero-Energy Building)の概念は当たり前になっていますが、私が武蔵工業大学に赴任した1991年当時は、まだバブル経済の余韻が残っていて、建築業界は、スクラップ&ビルドで新築建物をどんどん増やしていくという風潮でした。そんな状況の中で私は、このままこのようなことを続けていっていいはずはないという危機感を抱きました。一部の研究者、建築家も、これからは地球

環境に配慮した建築・まちづくりが大事だと考え始めていて、日本建築学会でも1990年に地球環境特別研究委員会が産声をあげていました。

何はともあれ、建築がCO<sub>2</sub>などの温室効果ガスをどのくらい出しているのかを定量的に測定し評価することが必要だと考えた私は、武蔵工業大学の学生諸君と一緒に、それぞれの建築材料が製造されるまでにどのくらいの温室効果ガスが排出されるのかを調査し、データベースとして発表しました。また、建築材料を使い回して資源生産性を高めるため、彼らと一緒に、建物の解

公式LINEから  
最新情報を配信中





世田谷キャンパス

体現場に出向き、それらがどう壊され、材料はどう廃棄されるのか、あるいはどうリユースされるのかを調査しました。そして様々なデータを泥臭く集めて分析して得た知見を英語圏で論文発表したところ、高い評価が得られたことから研究の手応えを感じ、その後の研究の方向性を定めることができました。

サステナブル建築を実現するためには、建築業界だけでなく様々な分野との連携が必要です。国内外の研究者との連携交流から、建築分野以外の企業や研究者とのネットワークも広がっていきました。

このように、私は、当時、武蔵工業大学と呼ばれていたこの東京都市大学で、自らの研究基盤を作ることができました。

※1 サステナブル建築とは、地域レベルおよび地球レベルでの生態系の収容力を維持する範囲に収まるように、省エネルギー・省資源・リサイクル・有害物質排出抑制を図り、その地域の伝統・文化を保ちつつ、将来にわたって、人間の生活の質を向上させていくことができる建築。

※2 生み出されたモノ・サービス・付加価値の量(output)÷使用資源量(input)、すなわち、単位の資源を用いることによって生み出されるモノ・サービス・付加価値の量。経済活動において使用される資源をどれだけ効率的に活用して付加価値を生み出すかを示す指標。

### ●東大ではプロジェクト・マネジメント(※3)研究や、イノベーション・マネジメント(※4)研究にも先鞭をつける

1998年、母校、東京大学に教員として着任します。ただその着任先は、卒業・修了した建築学専攻ではなく社会基盤工学(土木工学)専攻でした。「コンストラクション・マネジメント」という新しい研究室の立ち上げに力を貸してほしいという要請に応じたものです。コンストラクション・マネジメントはまさに分野融合の分野でした。その後、急な欠員ができたなどの学内事情から生産技術研究所に移籍し、プロジェクト・マネジメント研究の開拓に従事しました。

その矢先、小宮山宏先生(その後東大総長)からお声がかかります。武蔵工業大学時代からのサステナブル建築に関する研究への取り組みをどこかでお聞きになったようで、先生が立ち上げようとしていたバイオマス(木くず、廃食用油など生物由来の有機性資源)活用促進を目的とした研究開発プロジェクトへの参加要請でした。学内外の化学、機械工学、林学など様々な分野の専門家と連携し研究開発に取り組みました。地域に散在するバイオマス資源をどこで、どういう処理をす

れば、その運搬収集に要するエネルギー使用も含めた利用効率が最大化できるのかを探究しました。また、当時出始めたバーコードやICタグを活用してバイオマスのトレーサビリティ・システムを開発し、それを森林資源にも適用・試行することで、日本の林業が抱える流通上の問題点も明らかになり、その課題解決にも取り組みました。

こうした異分野の専門家が連携して何かを創り出していった経験は、MOT(management of technology)を担う技術経営戦略学専攻という新たな専攻を東京大学大学院工学研究科に立ち上げるお手伝いをした際にも活かされました。この新専攻で私は「イノベーション・マネジメント」という授業を託されましたが、この科目は、様々な得意技をもった人々が神輿を担ぐようにして現代のイノベーションが進んでいくことを理解し実践できるようになることが主眼になっています。武蔵工業大学が提供してくれた一年間の英国研修で知己を得たインペリアル・カレッジ・ロンドンのデビット・ギャン教授(のちに同副学長、さらに後にオックスフォード大学副学長)など多くの国内外の先達に示唆・助言をいただきながら、2016年には、「イノベーション・マネジメント」[書影]を出版することができました。

※3 独自の目的を期限までに達成していく一連の活動及びプロセスが、適切に動いていくように、種々の対策を施し、価値創造に導いていくこと。

※4 何らかの新たな取り組み・率先により、何らかの、精神的・身体的・経済的な豊かさや潤い、または、人や社会に役立つこと、あるいは、しあわせを創造・増進し、現状を刷新するような社会的な変革が生み出されるように、組織・プロセスを動かしていくこと。

## イノベーション・マネジメントの視点から見た日本のものづくり産業

——どう活かす?日本の得意技

かつてナンバーワンとも言われた日本のものづくり企業の多くは、情報技術を駆使して世界規模でサービス・コトを提供し巨万の富を築いている企業に、部品を提供することで売り上げをあげる立場になってしまっています。こうした状況



横浜キャンパス

が進んでしまった一因は、創造性の低下や、本質を見抜く力、言い方を変えると洞察力の欠如にあると私は考えています。

それは、日本語にはイノベーションという言葉がなかったため、技術革新と混同されるなど、必ずしもイノベーションが適切に理解されてこなかったこととも無縁ではありません。イノベーションは必ずしも技術革新を伴うものとは限りません。例えば、世界の多くのイノベーションの教科書で紹介されている「ウォークマン」。技術的には殆ど新しいものではありませんでした。しかし《音楽を持ち歩く》という新しい意味を創り出したのです。

iPhoneなどスマートフォンの部品の多くは日本製ですが、その新規性は、単なる携帯電話ではなく、そこに《サービス端末》という新たな意味を与えたことにあります。

ウォークマン開発を主導した盛田昭夫さんも、iPhoneを生み出したスティーブ・ジョブズさんも、人間にとっての新たな《意味を作り》出すことという側面で創造力を発揮したわけで、人工物が人間にもたらす体験の本質を洞察する力がその創造力の基盤にあると考えられます。

これまでの日本の企業、特に製造業の縦割りの事業部制は、既存の人工物を改良、改善していく点では優れていました。しかし、人にとっての新たな体験、新たな意味を提供する、まったく新しい種類の人工物を創出するためには、不向きな組織構造になってしまっています。

世界は今、GAFと呼ばれる巨大IT企業が提供するモノ・コトと全く無縁で生活や業務ができなくなっているほどになっています。コロナ禍がもたらした働き方、教育についての大きな変化も、巨大IT産業には追い風であったと後世の歴史家は評するでしょう。

私は、いまを席卷するこうした企業の本質は、《システムのシステムを構築する》ことにあると思っています。20世紀の日本企業のようにすべてを自前で行おうとするのではなく、Apple Storeに様々な企業が開発販売するアプリが「展示」されていることが象徴するように、何層にも分かれたシステム階層の基盤層、言い換えれば、さまざまなシステムを束ねるシステムだけを自ら握るという戦略を組み立てています。

一昨年からは、こうした巨大なシステ



ムの各層に、生成AIが適用されるようになり、教育を含むさまざまな分野で、人々にとっての新たな体験、新たな意味を怒濤のように生み出し始めています。

このように、強大化しつつある枠組みのなかで、少なくとも当面は私たちはこれからの産業のあり方、人材育成を構想せざるをえないと思います。ただ、将来は、この国から、新世代の「システムのシステム」の構築者、担い手が生まれていくよう、私たち大学の教育者は知恵を絞り実行していかなばならないと思っています。

## 専門性プラスデザイン・シンキング

——神輿が担げ、二枚腰の人材を育成したい

### ●デザイン・シンキングのためのプログラムとPBLのさらなる充実を

このような状況の中で、大学を卒業した後、「人生100年時代」をどう生きて行くのか。そのために必要な能力・スキルとは何か。かつて日本企業がもっていた社内での能力構築が縮退しているなかで、大学は一步前を出ていかないとはいけません。

そこで、本学は、工学教育の良き伝統は守りながらも、本質を見抜く力を育成しようとしています。カメラのついた携帯を見たら、「もはやこれは携帯ではなくサービス端末になりうるのだ」と見抜けるような洞察力を、です。

そのためには、座学に加えて課題解決型学習(PBL)の重要性がますます高まってきます。本学では、「ひらめき・こと・も





「ひらめき・こともの・くらし・ひと」づくりプログラム 授業の様子

の・くらし・ひと」づくりプログラム等、創造力を育むための授業、言い換えれば、デザイン・シンキングをトレーニングするプログラムが既に始まっていますが、今後それらをさらに本格化していきます。これらの取り組みは、未知の状況で出会った課題に対する解決策を組み上げていく力を育むだけでなく、異分野、異なる学科の仲間と取り組むことが大きな助けになるという体験知も生み出すことになり、こうして育まれた力や知は、将来どこかで、必ず生きてくるはずですよ。

ちなみに、一人の天才、発明家による業績が歴史を大きく動かすイノベーションは、これからおきえるでしょう。ただ、イノベーションのやり方の主流は、様々な人が集まり、各自が得意技を出し合いながら生み出していき、いわば《みんなで神輿を担ぐ》ような流儀になっていくであろうと、最新のイノベーション・マネジメント研究では認識されるようになってきました。試作されたプロトタイプについて、多様な人々が参画するフォーメーションを作り、みんなで「試作⇒評価⇒造り変える」のプロセスを繰り返す、その際、ユーザーと作り手が協働することが必要ならユーザーも巻き込んでいく、といった具合です。こうしたプロセスは、まさにサステナブル建築を開発していく際にも必要なものでした。仲間とのPBL、異分野のメンバーとの協働を通じたデザイ

ン・シンキングの修練は、神輿の担ぎ手になるための絶好のトレーニングになると思います。

●**伝統の専門教育をさらに磨きつつ、教養教育も充実させたい**

もちろん専門性を育む教育の質保証はこれまで以上に重視していきたいと考えています。レートスペシャリゼーション傾向にあるように見える大規模大学とは異なり、入学直後から専門性の育成に取り組むことで、「手が動く」、基礎的な能力のある技術者を育てるといふ、武蔵工業大学時代から積み上げてきた産業界からの信頼をさらに強固にしていきたい。新進企業が興味を示さないニッチな分野で、日本が優位性を保ちながらイノベーションを進めていける余地はまだたくさん残されています。本学では、他大学では看板をおろしてしまった、担当教員が殆どいなくなっている分野の先生方が力強く活躍されています。例えば、理工学部原子力安全工学科や理工学部電気電子通信工学科の強電分野、あるいは水素エネルギーの利用に関する教育研究については、日本全体を見渡しても私たちは貴重な担い手となりつつあります。これらの技術は、なくてはならぬ技術ですので、様々な挑戦をしつつ技術継承の責務を果たしていきたいと思っております。

リベラルアーツ教育も充実させていき



社会人向けのリカレントプログラムを開講

たいです。変化の激しい時代を生き抜くには、大学で学んだことだけでなく、《自学自考》、自分で学び、自分で考えつつ、継続的に能力構築していかなければなりません。その基盤となるのがリベラルアーツ教育です。哲学でもいいし、農業、歴史でもいい、専門以外に興味のある分野を見つけ、専門とは違ったアングルでものごとを考えられるようになることはとても大事です。ただ、中規模大学としては、用意できる教科数は大規模大学のように豊富ではないかもしれません。こうした問題意識を共有できる仲間の大学と連携することで、多種多様な科目を用意し、学生諸君の多様な知的好奇心に応えていきたいです。こうした観点からは、教育コンテンツのデジタル化が進んでいることも追い風です。

創立100周年を迎える2029年以降、私たち大学のあり方とはどのようなものであるべきか。日本の大学というものの本質を見極め、未来の大学のあり方を洞察し、そのために必要な施策を考え実行に移していきたいと思っています。

**高校生へのメッセージ**

——**専門プラスアルファで、先の見えない未来を切り拓く**

本学だけではなく、大学はみな、それぞれの専門領域で、4年間あるいは6年間で

どのような能力を身につけていけるかを示しています。ただ、変化・変革の激しい時代には、大学で身につけた能力だけでその後の人生を乗り切っていくのは難しいでしょう。そこで大学で学んだことが陳腐化してしまったとしても、前例のない課題に対処できる能力を生涯にわたって構築していける素養を育成していきたい、本学はそういう思いで教育に取り組んでいます。言い換えれば、《二枚腰》の人材となれるようお手伝いしたいのです。私たちは、皆さんの大学生活が、専攻を縦糸に、自学自考能力を横糸にして、自らの力を磨く機会になるよう努めています。専門課程の内容に加えて、貴兄貴女にとっての横糸を編み込める可能性も大学選びの観点に加えてみては如何でしょうか。

**リカレントプログラムで、社会人を応援**

社会人を対象に、東京都市大学が得意とする応用的なデジタル・グリーン分野の知識と技術を修得する「東京都市大学リカレントプログラム」を開講。オンデマンドと対面授業を組み合わせた学習を提供。対面での授業は、渋谷サテライトクラスなどで開講される。マイクロクレデンシャル制度をベースに、オープンバッジ(デジタル証明)も発行。

**高い専門力と分野を超えた実践力を修得する「サステナブルな都市づくり」に携わる学部・学科の学び比較**

建築都市デザイン学部は、快適で豊かな暮らしを生み出せる建築家や都市をデザインできる技術者、建築家をめざします。環境学部は環境にもヒトにも配慮したまちづくりや、人と自然が共存する持続可能な社会を創造できる人材をめざします。都市生活学部は街や都市の活気を生み出す企画立案から構築実行までトータルプロデュースできる人材をめざします。



	建築都市デザイン学部		環境学部	都市生活学部
学科	建築学科	都市工学科	環境創生学科	都市生活学科
主な分野	建築・デザイン 設計・構造・材料	都市・土木・ 防災・インフラ	環境保全・生態・ グリーンインフラ	まちづくり・未来都市・ 経営・空間デザイン
入試受験科目	理系	理系	理系(文系)	文系(理系)
学生が選んだ学科のポイント	工学的要素と芸術的要素の両面から建築を学び、一級建築士を志せる	道路やトンネル、橋梁など土木構造物の専門知識を学べる	フィールド系科目も多く、生物多様性や都市環境の快適性を研究できる	空間デザインや、情報分析力を修得し、プロジェクトで実践力を磨ける

**東京都市大学**  
TOKYO CITY UNIVERSITY

世田谷キャンパス

横浜キャンパス

理工学部/建築都市デザイン学部/情報工学部  
都市生活学部/人間科学部  
環境学部/メディア情報学部  
デザイン・データ科学部

【お問い合わせ】入試課 TEL.03-6809-7590(部署代表)

都市大

検索 HP <https://www.tcu.ac.jp>



1万人が参加する  
**OPEN CAMPUS**  
8/4(日)、8/5(月)  
(事前申込制)

# 平和な世界を構築するために

## 見えない暴力に気づくことから始めよう

ロシアによるウクライナ侵攻や、イスラエルとハマスとの紛争など、平和を揺るがすニュースに日々接する中で平和学や平和構築\*に注目が集まっています。凄惨な暴力を経験した人々は、どのようにして平和を取り戻せるのでしょうか。紛争を再燃させないためには何が必要でしょうか。冷戦後に多発した内戦後の平和構築について、フィールドワークに基づく研究で成果を上げてこられたクロス京子先生に、私たちにできることについてアドバイスをいただくとともに、所属する国際関係学部の学びについてもお聞きしました。

\*平和学は、国家間の戦争だけでなく、国家以外の集団間で起きる暴力の発生原因や平和を阻害する要因を分析し、平和の諸条件を分析する学問。  
平和構築は、平和学から発生した概念で、紛争後の復興や再建という意味で1990年代以降、国連の政策用語として広く知られるようになった。

### 平和学、平和構築との出会い

私が平和学や平和構築に関心を持ったのは、冷戦が崩壊し、世界中で内戦が勃発していた時期でした。アパルトヘイトという人種隔離政策が撤廃された南アフリカでは、ネルソン・マンデラが大統領に就任した後、白人による黒人差別など過去の不正義をどのように克服するかという重要な課題に直面していました。このとき設置されたのが、「真実和解委員会」でした。この委員会による問題解決は、刑事裁判による処罰でも、誰も罪に問われない恩赦でもない、真実を知ることによって共存の道を探る「第三の道」と評されます。被害者やその家族、加害者などからの聴取を行い、アパルトヘイト下でどのような暴力が誰によって行われたのか、真実の解明を行うとともに、メディアを通じて広く社会全体で事実関係を共有しました。また、公聴会と呼ばれる公開の聞き取り会では、被害者が自分の辛い経験を語り、加害者がそれを傾聴して謝罪するなど、被害者と加害者間の和解のシーンを広く国民が目にし、新生南アフリカの国民を勇気づけることになりました。

このような紛争解決方法があることを知った私は、紛争を経験した社会がどのように痛ましい過去を克服していくのかを研究するために、シエラレオネやリベリアなどのアフリカ諸国、東ティモールやフィリピンなどの東南アジアの紛争地に赴き、紛争後社会の平和構築の実態をつぶさに研究してきました。あわせて紛争下における女性に対する性暴力や、それらが女性や社会全体に与える影響についても研究してきました。

### 移行期正義って?

幅広い活動を含む平和構築の中で、特に私が力を入れて研究してきたのが「移行期正義」(transitional justice)です。南アフリカの真実和解委員会の活動もそ

の一例ですが、紛争後の社会における正義のあり方を意味します。過去の暴力や犯罪に対しては真相究明と責任追及を行い、将来の紛争防止のために制度改革を行う、過去と未来に働きかけるプロセスです。以下の4つが主なもので、紛争の過程や、その規模、原因など、個別の状況に応じて組み合わせることでよりよい道筋を探ります。

- ① 真実委員会などによる真相究明
- ② 刑事裁判による責任の所在解明と処罰
- ③ 警察や軍隊、憲法など国の仕組みをより民主的なものへと改革
- ④ 補償・賠償(金銭的補償に限らず、博物館や石碑のような過去を忘れないためのシンボル設立も含まれる)

### 遠い世界での紛争を身近に感じるためのトレーニングを

私が授業やゼミで暴力の構造を説明するときに使うのが、ヨハン・ガルトゥング\*の暴力の三角モデルです。紛争に限らず、人々は目に見える「直接的暴力」に目を奪われますが、それは暴力の一部に過ぎず、その水面下には「構造的暴力」と「文化的暴力」と呼ぶ二つの暴力が潜んでいるとする考え方を表わしたものです。

構造的暴力とは、社会や政治、経済システムの中に組み込まれた差別や不平等を生み出す構造を指し、直接的暴力ではない形で間接的に生命や人生・自己実現の機会を奪う要因とされます。一方、文化的暴力は、直接的暴力や構造的暴力の存在を正当化する偏見や差別的な考え方とされます。

身近な問題に例えると、「男性はこうあるべきだ」や、「女性はこうあるべきだ」という性別役割分業や家父長的な考え方(文化的暴力)は、女性の経済的自律を阻み男性に依存させるような社会システム(構造的暴力)を正当化し、また

京都産業大学  
国際関係学部教授  
クロス 京子先生



#### Profile

1971年兵庫県西脇市生まれ。京都外国語大学外国語学部英米学科卒業。大阪大学大学院国際公共政策研究科博士前期課程修了。修士(国際公共政策)。神戸大学大学院法学研究科博士課程後期課程修了。博士(政治学)。現在、京都産業大学国際関係学部教授。兵庫県立西脇高等学校出身。



### 1年次から専門を英語で学べる

#### 国際関係学部の学びと2025年度からのカリキュラム改革

国際関係学は、政治・経済、法、社会、文化や歴史など、多角的なアプローチが必要な学際的な学問です。グローバルな課題は様々な要素が複雑に絡み合っています。国際関係学では、その複雑な要素を解きほぐしながら、同時に得られた知見を結びつけ、課題の全体像を理解しようします。

私たちの学部では、1年次に国際関係学の基礎を広く学び、全員が「海外フィールド・リサーチ」という3週間の海外での現地調査を行います。そこで得た現場感覚をもとに、2年次から「政治」「経済」「共生」の3つのコースに分かれ専門性

を高めます。コースに分かれても所属コース以外の講義科目を一定数履修しますので、専門分野を絞りつつ同時に多角的な視点を鍛えることができます。

2025年度からは一部カリキュラムを改編します。1年次と2年次の学部必修の英語を国際関係英語とし、専門の基礎的概念や理論だけでなく、データ分析、ディベート、プレゼンテーションなどの実践的なスキルも全て英語で習得し発信できるようにします。集大成として、3年次ではグローバルな課題に対する解決策を考察し、英語でのプレゼンテーション・ディベート大会を行います。

女性を劣った存在として従順でない女性への暴力(直接的暴力)を生み出すと考えられます。この考え方に基づけば、障がい者やLGBT、さらには外国人に対する偏見や差別構造など、目には見えない文化的暴力や構造的暴力が存在し、直接的な暴力となって現れる危険性に気づくことができます。こうした日本社会にある身近な問題をこの暴力の三角構造から捉えてみることで、自分たちの周りには「紛争の種」が転がっていることに気づき、世界の紛争との距離を縮めるトレーニングができます。

\*Johan Vincent Galtung: 1930年~2024年。ノルウェーの社会学者・数学者、平和学の父と呼ばれた。

### 高校生へのメッセージ

平和構築や紛争解決などに興味のある人は、できるだけ広い視野を持つために本や新聞など多様な情報源に当たり、多様な立場を理解する力、理解しようと

する態度を養ってほしいと思います。例えば、特定の国の人たちに対する偏見はないでしょうか。一つの情報から判断することなく、どの国にも多様な人々がいてそれぞれの生活があることに気づいてほしいと思います。

ウクライナ紛争やパレスチナ問題など、目を覆いたくなるような暴力に対し、自分たちに何ができるのかと質問を受けることがよくあります。直接的な支援ではありませんが、日本に住む私たちができることとして、政治に関心を持ち行動することを勧めます。日本政府は世界平和のために何をしているのか。ウクライナ問題や中東の紛争に、日本の政治や経済はどのように関わっているのかなどに関心を持ち、投票行動を通じて自分の意志や意見を表明するのです。これが、遠く離れた紛争地に対して今すぐ私たちができることです。

# OPEN CAMPUS 2024

7/21 | 8/3・4 | 9/15



詳しくはこちら

10:00~(9:30~随時受付) 事前申込制(当日申込可)

高校生の方はもちろん、保護者の方もご参加いただけます。  
イベント詳細および事前申込は京都産業大学の入試情報サイトをご確認ください。

<b>経済学部</b> ● 経済学科 ● マネジメント学科 ● 法学部 ● 法律学科 ● 法政策学科	<b>現代社会学部</b> ● 現代社会学科 ● 健康スポーツ社会学科 <b>国際関係学部</b> ● 国際関係学科	<b>外国語学部</b> ● 英語学科 ● 英語専攻/イングリッシュ・キャリア専攻 ● ヨーロッパ言語学科 ● ドイツ語専攻/フランス語専攻/スペイン語専攻 ● イタリア語専攻/ロシア語専攻 ● メディア・コミュニケーション専攻 ● アジア言語学科 ● 中国語専攻/韓国語専攻/インドネシア語専攻 ● 日本語・コミュニケーション専攻	<b>文化学部</b> ● 京都文化学科 ● 国際文化学科 <b>理学部</b> ● 数理科学科 ● 物理科学科* ● 宇宙物理・気象学科	<b>情報理工学部</b> ● 情報理工学科 <b>生命科学部</b> ● 先端生命科学科 ● 産業生命科学科
---	--	---	---	---

\*2024年4月「宇宙物理コース」「先端生命科学コース」を新設。

入学センター  
〒603-8555 京都市北区上賀茂本山  
TEL 075-705-1437  
E-mail: info-adm@star.kyoto-su.ac.jp

入試情報サイトはコチラから

# 2025年度、神戸大学医学部に、 日本初の医療機器開発に特化した学科、 「医療創成工学科(仮称)」誕生！

**独自のカリキュラムで次世代の医療機器開発を  
リードする人材育成を目指す**

新学科では、人体を取り扱うため失敗が許されない最も困難なものづくりである「医療機器開発」を題材として、医療現場ニーズの抽出から医療機器の実用化まで、医療機器開発の全プロセスを学ぶ。カリキュラムは、医学、工学、生体医工学、医療機器学、臨床現場実習といった幅広い分野をカバー。医学と工学の基礎知識を学びつつ、創造力を養い、医療機器開発に必要なスキルを体系的に身につけることができる。また、臨床工学技士の受験資格も得られる。

**最先端の研究に触れられ学びの環境も充実**

MEMS(微小電気機械システム)技術を用いた血管内

に適用可能なマイクロセンサ等の開発や、手術支援ロボットに

よる遠隔手術やDX化など、最先端の研究プロジェクトに参加する機会も豊富だ。また医療現場での実習を通じて実践的なスキルを磨きながら、医療従事者や技術者との連携を深めることができる。さらに、神戸医療産業都市という日本最大級のバイオメディカルクラスターに位置しており、先端医療機器の実践的教育にもつながる研究開発プロジェクトにも参加できる。学生がニーズを捉え、医療機器等に関する独創的なアイデアを創出する力を養うための最適な環境と言えよう。

**求める学生像と卒業後のキャリアパス**

医療創成工学科では、生命科学・医学や物理学・工学に



興味を持ち、好奇心と探究心を併せ持った学生を求めている。大きな目標を持ち、自由な発想と質の高い情報に基づいて批判や討論のできる学生、コミュニケーション能力と協調性を備え、問題解決において独創性と指導力を発揮できる学生、また、国際的に活躍したいという意欲を持った学生も歓迎とのことだ。

卒業後は、医療機器メーカーや製造企業、ベンチャー企業、大学、研究機関、官公庁、自治体、規制当局など、多岐にわたる分野で活躍することが期待されている。また、ものづくりに必要な実践的なカリキュラムで学ぶため、医療機器メーカーだけでなく幅広い業界でも活躍できそうだ。



# 2025年、関大BDS(ビジネスデータサイエンス学部)(仮称・設置構想中)からビジネス革新

※設置計画は予定であり、内容に変更があり得ます。

**■ビジネスデータサイエンス学部の特徴**

新設される関西大学のビジネスデータサイエンス学部(仮称)は、理系と文系の知識を融合させた新しい学部。「データ」を通じて経済や社会を洞察し、社会課題を解決してビジネスにいかして展開していく人材を養成することを目的とする。

**■独自のカリキュラム**

カリキュラムは、ビジネス系科目、アクティブラーニング系科目、そしてデータサイエンス系科目の以下の3つの柱で構成されている。

**ビジネス系科目**

ビジネスの基礎知識として、経営学、会計学、簿記、企業財務、組織論、マーケティング、生産管理、起業などを学ぶ。

**アクティブラーニング系科目**

論理的思考を養うための科目や、企業と連携した実課題演習、ゼミナールなどの実践的な講義を中心に学ぶ。

**データサイエンス系科目**

数学、プログラミング、統計解析、データマイニング、AI、ディープラーニング、ビッグデータなど、データ解

析に必要な知識と技術を学ぶ。

これらの科目を通じて、学生はデータ解析をビジネスに活かす実践的な経験を積むことができる。

**■卒業後の進路イメージ**

卒業後は、IT産業、メディア、製造業など多岐にわたる分野でデータサイエンティスト、マーケティングアナリスト、政策・戦略立案者としての活躍が期待される。特に2030年には日本で約79万人のIT人材が不足すると予測されており、ビジネスデータサイエンティスト、技術志向人材、起業家、AIや統計学に強い教育・研究者として社会で重要な役割を果たすことができる。

**■「情報」や「ビジネス」について学べる、他の学部との  
ちがいがい**

**総合情報学部での学び**

総合情報学部では、法学・経済学・社会学・心理学・教育学などの人文・社会科学からコンピュータ科学まで幅広い分野を学び、CGやプロジェクションマッピングなどの映像系制作、アプリ開発やゲーム制作、画像解析に取り組む。

**商学部での学び**

商学部は「流通」「ファイナンス」「国際ビジネス」「マ



ネジメント」「会計」を専門分野として、ビジネスに特化した専門的な教育を受ける。

**システム理工学部での学び**

システム理工学部では、数学と物理学分野に工学系の学びを加えた教育・研究が展開され、AI・IoT時代のモノづくりをリードする技術者を育成する。

**■キャンパス環境・アクセス**

ビジネスデータサイエンス学部のキャンパスは、2023年10月に開設された「吹田みらいキャンパス」。最新設備を備えたこのキャンパスには、244個室の国際学生寮やグラウンドがあり、企業・自治体との連携や留学生との交流も活発に行われている。また、千里山キャンパスから北東2.2kmに位置し、関西都心部へのアクセスも便利。

# 見つけようミライ!! いまの自分からなりたい自分へ 桐蔭横浜大学

**3学部1学環による専門教育×全学共通教育「MAST(マスト)」  
あなたの「なりたい」をかなえ、「やりたい」を創る**

桐蔭横浜大学の、あなたの「なりたい」をかなえる学びとは学部・学環の高度専門プログラムで、確かな知識とスキルを養います。「やりたい」を創る学びとは、現代社会の諸問題を幅広く学ぶ共通プログラム「MAST」。学びへの興味関心を広げ、仲間と切磋琢磨することで、自らの能力を伸ばし、未来のキャリアへの選択肢を増やします。

「MAST」は各人の未来像によって体系的に選択できるユニークなカリキュラム群。具体的には学びの基盤となる3つの科目(桐蔭キャリアゲート、桐蔭スキルゲート、データコミュニケーション入門)と、可能性を広げる体系化された6つのコンボ(地域創成、ビジネス・インテンシブ、異文化スタディ、現代心理、地球環境、アスリート・イン・ソサエティ)、およびライブデザイン系とキャリアデザイン系の2つのウェルビーイングプログラムからなります。

複数の科目をセットで履修することで、一人ひとりの「なりたい自分」が見つかり、新たなモノの見方・考え方を身につけることができます。

法学部  
法律学科 × 地域創成  
地方公務員

地域社会が抱える様々な課題を理解し、解決に導くための知識を身につけ、豊かな社会を実現します。

医用工学部  
臨床工学科 × 現代心理  
臨床工学技士

心のメカニズムを学び、一人ひとりの気持ちに寄り添う医療従事者を目指します。

スポーツ科学部  
スポーツ健康科学科 × ビジネス・インテンシブ  
チームフロントスタッフ

経営やマーケティングを学び、スポーツの新たな価値創出に貢献します。

現代教養学環  
マーケティング学コース × 地域創成  
地方銀行員

マーケティングを専門的に学びながら、地域社会が抱える課題について理解を深めます。

例えば法学部で地方公務員を目指すなら、法律学科×MASTの地域創成、医用工学部で臨床工学技士を目指すなら臨床工学科×MASTの現代心理、スポーツ科学部でチームフロントスタッフを目指すならスポーツ健康科学科×「MAST」のビジネス・インテンシブ、現代教養学環で地方銀行員を目指すなら、マーケティング学コース×「MAST」の地域創成といった具合です。

## OPEN CAMPUS2024のご案内 7/27(土)・28(日)、8/24(土)・25(日)、9/28(土)

桐蔭横浜大学のオープンキャンパスは学生主体で行われます。

どんな大学なんだろう?その答えを知るには、実際に行ってみることが一番です!

模擬授業、学生トークライブ、個別相談、キャンパスツアーなど様々なプログラムが用意されています。

来場して、大学生気分を味わおう♪保護者の方も大歓迎です!

事前予約制で受験生応援サイトから予約できます。

<https://toin.ac.jp/ouen/event/opencampus/#>

自然に囲まれた広大なキャンパスで、一緒にミライのことを考えてみませんか?

みなさんにお会いできることを楽しみにしています。



ご来場をお待ちしております



桐蔭学園マスコット キリリン

## 慶應義塾大学理工学部 2025年度から「学問分野への興味の強さを重視」したAO入試新方式を導入



慶應義塾大学理工学部は2025年度から電気情報工学、数学、化学への興味の強さを重視した新方式のAO入試を取り入れる。各分野に興味を持った経緯を記入する志望理由書や、課題解決型記述問題などで合否を判定する。

慶應義塾大学理工学部によると、2025年度のAO入試より、電気情報工学科・数理科学科・化学科をそれぞれ第1希望とする志願者について、特に学問分野への興味の強さを重視して学科別に募集する。高校在学時に授業・課外活動などで研鑽を積み、入学後も他の学生の範となることが強く期待される者を選抜する。

例えば電気情報工学科は、「ハードウェア、ソフトウェアの両方を組み合わせたエレクトロニクスに強い興味を持つ」「数学や物理(電気回路・電磁気)、情報などの科目を深く学習する意欲を持つ」「デバイス・レーザー・半導体・画像処理・通信・人工知能・量子技術・数学を応用したシステムなどの技術分野で高度情報社会を先導する意思がある」といった学生像に合致する志願者を募集する。なお、学科の併願および入学後の学科の変更はできない。

出願期間は2024年9月30日(月)～10月3日(木)。第1次選考は、当該分野に関連して深い興味を持つに至った理由や、どのような夢・希望を実現したいと考えているかなどを具体的に記載した志望理由書をもとに書類選考する。合格発表は10月25日(金)。

第2次選考は総合審査として、12月7日(土)に筆記ならびに記述試験による論理的な思考を問う総合審査を実施し、当日中に合格発表を行う。ただし化学科は行わない。化学科は、第1次選考合格者に対しては第3次選考を実施する。

第3次選考は12月8日(日)に面接試験を実施し、12月13日(金)に合格発表を行う。面接では論理的思考の確認に加えて、希望する学問分野に対する旺盛な知的好奇心と探究心、豊かで柔軟な発想力といった資質を備えているかを十分な時間をかけて審査する。

本入試制度による入学者は、通常第2学年から学科に所属するところを第1学年から学科に所属し、学科に設定されたプログラムを第1学年から活用することができる。また、教員による学習サポートなどが用意されるほか、AO入学者の交流の場形成と活用学科別AO入試の入学者同士の交流の場(電気情報工学、数理科学、化学)に参画できる。

## 麻布大学「麻布出る杭プログラム」4期生が研究成果を発表

2024年5月29日、麻布大学が推進する動物共生科学ジェネラリスト育成プログラム、通称「麻布出る杭プログラム」を修了した4期生が研究成果を発表した。当日の会場は、通常の卒業研究のポスター発表会と同じ形式ながら「どんどん聞きに来てください」とアピールする発表者のもとに研究好きな学生と教員が集まって質問が飛び交い、ライブ会場級の熱気に溢れた。

麻布出る杭プログラムは、ヒト・動物・環境の持続的健康社会の構築のために世界をリードできる人材の育成を目指し設計された。文部科学省の令和2年度大学教育再生戦略推進費「知識集約型社会を支える人材育成事業」の「メニューII 出る杭を引き出す教育プログラム」において全国の大学で唯一採択され、中間評価で最高評価「S」を獲得している。

学生の研究意欲を高め「出る杭」を引き出すため、学部1年次後期という早い段階から“本物”の研究に取り組むことができるのが最大の特徴。参加を希望する学生には、単位修得に関係なく「やりたい」「知りたい」という純粋な気持ちで応募してくる主体的な学生が多く、大学教員にとっても、共に研究し、新しい知見を増やし、喜び合える“仲間”という存在になっているという。

参加した学生からは「最初は軽い気持ちで参加したが、まさかこんなに研究好きになるとは思わず、新しい自分に驚いた」「教員から指示を受けるのではなく、自分で新しい仮説を立てて考えて、自分で研究したいと思えるようになった」「研究職への興味が出て、将来の進路の選択肢が広がった。大学院への進学意欲も湧いた」といった感想が寄せられ、指導を担当した教員たちも口を揃えて「参加学生の探究心の強さ、研究分野に対する興味の持ち方が群を抜いて素晴らしい。ここまで自発的にチャレンジして研究に取り組めるとは」と喜びの声をあげた。

プログラムの立役者である菊水健史教授(獣医学部動物応用科学科)は「優秀な学生は、ほっといても伸びていきます。そのような学生をこのプロジェクトへ参加させると、成長スピードが

加速し、学部卒業時には修士課程ぐらいのデータ処理能力や思考力が育ってきます。やはり目的意識が高いので、科学的な手法を学ぶ姿勢が早く身に付き、データから価値を抽出する手法もスムーズに習得していきます。将来、サイエンスリテラシーだけでなく、協働性や学び続ける姿勢等、社会人として最も求められる特性も高いと感じています」と語った。

「麻布出る杭プログラム」は2023年度から高大接続にも広げられ、高校生も同じように、自分で「不思議」や「課題」を見つけ、解決に向けたアプローチを考え、チャレンジできることになった。高校生が大学の先生から直接の指導を受けながら研究にチャレンジできる環境も整いつつある。

また、海外チャレンジプログラムも開始し、4人の学生が海外で自分の研究成果を基に議論してきたという。菊水教授は「このような機会を増やし、研究室、更には日本という殻を破り、積極的に世界に向けてチャレンジしてほしい」と期待を寄せている。

発表会当日の発表内容は、麻布大学「麻布出る杭」特設サイトから見る事ができる。

## 京都橋大学が2025年度入試に3つの給付型奨学金を新設 4年間の授業料全額免除



京都橋大学では、2025年度入試において、最大で4年間の授業料が全額免除となる給付型奨学金や、情報工学科を志望する受験生を対象とした特待生制度など3つの給付型奨学金制度を新設した。

京都橋大学では、AI時代の社会課題解決にむけて、前例にとられない教育・研究・地域創造に取り組んでいる。特に情報学分野の充実を軸に、文理横断的教育・研究や通信・メディア教育の拡充を行い、新しい社会価値創造の担い手を養成したいと考えている。

そこで、2025年度一般選抜前期A日程、B日程(3科目方式)において、情報工学科の合格者を対象とした「たちばな超AI時代特待生制度」を新設。さらに、各学科の成績上位者を対象とした「S特待生制度」及び「特待生制度」を新設した。従来から展開している、共通テスト利用選抜前期日程(4科目方式)の合格者を対象とした「共通テスト受験奨励奨学金」と併せて、合計4種類の入試成績奨学金制度となった。いずれも家計基準は不問となっている。

<たちばな超AI時代特待生制度>

学科: 情報工学科

対象: 一般選抜前期A日程(3科目方式)、B日程(3科目方式)の合格者で75%以上得点した者

内容: 最大4年間の授業料380万円を免除(年間95万円※成績等に問題がない限り毎年度継続)

採用人数: 対象者全員

<S特待生制度>

学科: 全学科(書道コースを除く)

対象: 一般選抜前期A日程(3科目方式)、B日程(3科目方式)の成績最上位者(学科ごとに選考)

内容: 最大4年間の授業料を免除(※成績等に問題がない限り毎年度継続 国際英語学科の場合383万6千円)

採用人数: 30名

<特待生制度>

学科: 全学科(書道コースを除く)

対象: 一般選抜前期A日程(3科目方式)、B日程(3科目方式)の成績最上位者(学科ごとに選考)

内容: 入学初年度後期授業料から40万円を減免

採用人数: 270名

<共通テスト受験奨励奨学金>

学科: 全学科(書道コースを除く)

対象: 共通テスト利用選抜前期日程(4科目方式)の合格者

内容: 最大4年間160万円(年間40万円※2年目以降は継続要件あり)を減免

採用人数: 合格者全員(最大300名)

## 神奈川県13大学が学校推薦型選抜の書式を統一 手書きからPCでのデータ入力採用など

神奈川県にキャンパスを置く13大学が2025年度入試の学校推薦型選抜で統一された推薦書の採用を決めた。フォーマット統一に加え、手書きからPCでのデータ入力を採用するなど、推薦書作成時間の短縮で高校教員の負担を軽減するのが狙いとなっている。

神奈川県大学入試広報連絡会によると、推薦書統一に参加するのは、桜美林大学、神奈川大学、神奈川工科大学、鎌倉女子大学、関東学院大学、産業能率大学、湘南工科大学、田園調布学園大学、桐蔭横浜大学、東京工芸大学、東洋英和女学院大学、横浜商科大学、横浜薬科大学。

推薦書の名称は「全国大学推薦書標準様式」。神奈川県内にキャンパスを置く大学が加盟する神奈川県大学入試広報連絡会が加盟校の推薦書様式を分析するとともに、関東・甲信越地区の高校へのヒアリング調査などから推薦書の様式を決定している。

高校へのアンケート回答結果では、92.6%が「導入した方がよい」「導入してもよい」と回答(サンプル107)している。

神奈川県教育委員会は「校長から課題として意見が出たことがあった。賛成であり、ありがたい。できるだけ多くの大学に参加してほしい」とコメントを発表した。

## 千葉商科大学、学生が経営する「学生ベンチャー食堂」に4年生が新店舗オープン

千葉商科大学(千葉県市川市)がキャンパス内食堂スペースに設置している「学生ベンチャー食堂」に、サービス創造学部4年の土屋颯大さんが経営する新店舗「おむすび結(ゆい)」がオープンした。

千葉商科大学では学生に起業のチャンスを提供するため、キャンパス内の食堂スペース3店舗の出店権利を与える「学生ベンチャー食堂」を実施している。出店に際して、食の提供という重要な事業を任せるため、経営体制や衛生管理、収支計画の適正さ、魅力あるメニューと価格であるかなどを重視した選考を実施。選考を通過した学生経営者は、飲食店の営業条件となる食品衛生責任者資格の取得や営業許可の取得、税務署への個人事業の開業届出など、開店に必要な一連の準備を整える。出店期間は1年単位とし、その後の継続は、大学が経営成績を確認した上で判断している。

今回、経営権を得て「おむすび結」をオープンさせた土屋さんは、これまでサービス創造学部のプロジェクトやゼミナールなどで地域の企業とコラボレーションしたイベントなどを経験してきた。その中で、さらに地域に根差した活動をしたい、地域の人々と交流の輪を広げたいとの思いを強め、大学と地域、人と人とを結ぶことをテーマに今回の挑戦に至った。

「おむすび結」は、忙しい学生たちの「時間がない」「手軽に食べたい」といった食の悩みを解決するため、「はしで食べるおむすび」を中心にメニューを構成。店名には「大学と地域、人と人とを結ぶ」という想いを込めた。出店にあたり、JAいちかわに規格外野菜の仕入れを交渉、地産地消とフードロスにも取り組む。また、クラウドファンディングで資金を調達し、地域の子どもたちに無料でおむすびを提供できる「みらいおむすびチケット」710個分も用意した。

「学生ベンチャー食堂」は他に丼物を中心とした「満腹ダイニング」とホットスナック中心の「翔天」も出店している。「満腹ダイニング」はスタミナ丼、レパニラ丼、エビ天ぷらマヨソース丼など、「旨い」「安い」「ボリューム大」の商品を提供し、卒業生が継続して経営している。「翔天」は「忙しいあなたにサクッとお届け」をテーマに、学生たちの授業と授業の隙間時間に、小腹を満たすメニューを提供している。

なお、学生ベンチャー食堂を含む千葉商科大学の学生食堂は、学生・教職員以外でも利用することができる(大学の夏季休暇等の長期休暇や休校日を除く)。

## 関西大学システム理工学部が女子特別入試 2025年度入試から導入

関西大学は女性の理工系人材育成を目指し、2025年度からシステム理工学部女子特別入試を導入する。産業界から上がる女子の理工系人材育成を求める声に対応した格好で、女子特別入試からイノベーションに足跡を残す人材の輩出を期待している。



関西大学によると、女子特別入試の募集人員はシステム理工学部の数学科と物理・応用物理学科が各1人、機械工学科と電気電子情報工学科が各1~2人。システム理工学部全体で5人を募集する。

選考は書類審査、筆記試験、面接の結果を総合判定する。面接には基礎学力(教科書レベル)を確認するための口頭試問を含み、志願者の基礎的な知識・技能・資質および意欲に重点を置いた選抜を行う。入試日程および出願手続等の詳細は2024年6月中旬公開予定の入学試験要項で発表する。

日本の産業界は女性の理工系人材が諸外国より少なく、製品開発などに女性の視点が入りにくいといわれている。開発分野などに女性技術者を多数加え、多様な視点を確保することが急務になっており、国公私立を問わず、多くの大学で理工系学部女性枠を設けるところが相次いでいる。

## 昭和大学が昭和医科大学に校名変更 2025年4月から



学校法人昭和大学は運営する昭和大学の名称を2025年4月から昭和医科大学に変更することを決めた。また、2028年11月15日に創立100周年を迎えるにあたり、2027年4月開設を目指して川崎市宮前区に鷺沼キャンパスを整備し、保健医療学部の専攻と学科を再編する。

学校法人昭和大学によると、昭和大学は1928年に当時の東京府荏原町(現東京都品川区)に設立された昭和医学専門学校が前身。1946年に昭和医科大学を設置、1964年に昭和大学に改称した。今回の名称変更で旧名称が復活することになる。

現在は東京都品川区に本部を置き、学生数は2023年5月現在、学部・研究科・専攻科を合わせて3723名。医学部・歯学部・薬学部・保健医療学部の1年生は全員、富士吉田キャンパス(山梨県富士吉田市)で全寮生活を送り、2年次以降は旗の台キャンパス(東京都品川区)、洗足キャンパス(東京都大田区)、横浜キャンパス(横浜市緑区)で学んでいる。

創立100周年を記念して川崎市宮前区に鷺沼キャンパスを整備し、2027年度から医学部と歯学部、薬学部の2、3年生と4年生の一部、保健医療学部の2~4年生、助産学専攻科の学生併せて約2,000人が学ぶ予定。

同時に、保健医療学部にはリハビリテーション学科言語聴覚療法学専攻、視覚機能療法学専攻を新設するとともに、医療技術学科を新たに設け、診療放射線技術学専攻、臨床工学専攻、歯科衛生学専攻を開設することを計画している。

私立医科系大学の校名等の変更は、2016年に東北薬科大学が医学部新設に伴い「東北医科薬科大学」となったほか、2018年に開学50周年を迎えた藤田保健衛生大学が「藤田医科大学」となった。また、2021年、大阪医科大学と大阪薬科大学が統合し「大阪医科薬科大学」に、2022年には兵庫医科大学と兵庫医療大学が統合し「兵庫医科大学」となっている。

日本の大学・教育関連専門のニュースサイト

大学ジャーナル

UNIVERSITY JOURNAL

ONLINE

その他の詳しい大学関連ニュースは

大学ジャーナルオンライン

SEARCH



@univjournal



大学ジャーナルオンライン

# 大学ランキングからはわからない大学の實力

第6回

教育ジャーナリスト  
小林 哲夫さん

Profile  
1960年神奈川県生まれ。教育ジャーナリスト。朝日新聞出版「大学ランキング」編集者(1994年～)。近著に『日本の「学歴」』(朝日新聞出版 橋木俊昭氏との共著)。

## パレスチナ連帯を訴える学生の憂鬱

今年5月、大妻女子大の学生がXでこうつぶやいていた。

「正直しんどいですよね 人間の頭や体が吹き飛ばされ、逃げ延びた場所をなお燃やされ続けているのに、私が生活の中で触れ合う学生は誰もその話をしないんだから。」

パレスチナ・ガザ地区での悲惨な状況をさして、学生は抗議の意志表示をしたいけれど、話し合う仲間がいない、という訴えだ。

それでも学生は行動を起こした。「パレスチナに連帯する本よみデモ」を企画した。Xでこう呼びかけたのだ。

「大妻構内にて、パレスチナに対するイスラエルのジェノサイド・民族浄化について学び抵抗を示す、読書を通じたデモ活動を始めます。これは、パレスチナに対するイスラエルの大量げんくさつ・民族浄化について学び、抵抗を示す、大妻生有志による静かなデモです。パレスチナに関する本や資料を用意しました。大妻生のみならず、気軽に参加どうぞ」(5月9日)。

デモといえば、街頭や大学構内を行進するというイメージを抱かれやすい。1970年前後の学生運動世代にすれば、ヘルメットに覆面姿で石や火炎ビンを投げつけ、機動隊と衝突したことを思い浮かべるかもしれない。

いまは令和、2020年代だ。半世紀以上前のシーンは現れるわけがない。

デモ=demonstration、つまり意志表示さえできればその手段は創意工夫でもありだ。「読書を通じ」「イスラエルの大量げんくさつ・民族浄化について学び、抵抗を示す」デモと、機動隊と角材で対峙したデモのメンタリティは、本質的に変わっていないはずだ。

だが、大妻女子大の学生はキャンパスで戦争反対を訴え、デモ行進をしたかったのではないか。しかしそんなことをしたら、大学職員が飛んできて事情を聞かれ、大学から厳しい処分を受けかねない。

大妻女子大にはこんな学則がある。「大学・短大学則第25条、大学院学則第38条に基づき、以下の「本学学生としての本分に反する行為」をした場合は、処分の対象になります。

学内での喫煙・飲酒、学内での政治活動及び宗教活動……」(大学ウェブサイト)。

なるほど、読書デモが精一杯である。これは大妻女子大に限ったことではない、戦争反対を訴えたいが処分される、就職活動で不利益を被ると考えただけで行動を起こせない。学生は社会と向き合い発信しようとする憂鬱な気分になる。もちろん、大学は読書デモを罰するような焚書坑儒的な処分はしないはず。そういう意味で読書デモというアイデアはなかなかのものだ。

もっとも、多くの学生にすれば、正々

堂々とデモを行いたかったはずだ。

たとえば、東京大駒場キャンパスではパレスチナ国旗に模したテントが建てられ、集会を開くと多い時で500人の学生が集まった。早稲田大キャンパスでも100人以上の学生が声をあげている。学生が英語でアジテーション、いやアピールをした。

上智大では50人が学内などでデモを行っている。大学新聞が学生の訴えをこう伝えた。

「～ “We will not stand down until publicly call for a ceasefire, and you divest from Tel Aviv University (大学が公に停戦を呼びかけ、テルアビブ大学から手を引くまで、私たちが身を引くことはない)” と主張した」(上智新聞2024年5月21日号)。

上智大はイスラエルのテルアビブ大と提携しており、その解消を求めたものだ。これに対して、同大学の暁道佳明(てるみち・よしあき)学長は声明を出した。「教皇フランシスコのメッセージにもあのように、国際社会はパレスチナ・ガザ地区に起きている人々の非人道的な状態に極めて大きな憂いと憤りを抱いています。上智大学は、武力行使によって引き起こされる全ての人権侵害に反対するとともに、即時停戦と、人間の尊厳に基づく当該地域の人々の生活の回復、安全を求めます」(2024年5月28日)。

上智大トップの「大きな憂いと憤り」

はイスラエル批判とも受け止められる。実際、駐日パレスチナ常駐総代表部はXで謝意を示した。「上智大学の皆様ありがとうございます」(5月29日)。

だが、テルアビブ大との提携に触れていない。これに不満な学生はキャンパス内で抗議活動が続いている。

2024年7月現在、キャンパスでパレスチナ連帯のデモ(テント設営、集会、スタンディング、座り込み、施設にポスター掲示など)が見られたのは、SNSで確認できる限り、東北大、東京大、東京都立大、青山学院大、大妻女子大、国際基督教大、上智大、多摩美術大、東洋大、明治大、早稲田大、大阪大、京都大、立命館大など。

学問の目的の一つには戦争を起こさず、平和な社会を追求することがある。そのために研究者は理論を構築し、学生は学び実践する。いま、世界中の大学でパレスチナ連帯の輪が広がっている。だが、日本の大学ではそれほど盛り上がっていない。その理由として、大学の管理が厳しい、学生に意志表示する習慣がなかったことなどがあげられる。戦争に反対する、それは大学での学びでもあることを、大学構成員(学生、教職員)は肝に銘じ、大学は戦争をやめさせる術を研究し、それを行動によって示してほしい。間違っても、学生を憂鬱にさせる指導、管理はやめていただきたい。

### 雑賀恵子の 書評

雑賀 恵子

京都薬科大学を経て、京都大学文学部卒業、京都大学大学院農学研究科博士課程修了。著書に「空腹について」(青土社)、「エコ・ロコス 存在と食について」(人文書院)、「快樂の効用」(ちくま新書)。大阪教育大学附属高等学校天王寺学園出身。



### よくわかる一神教

ユダヤ教、キリスト教、イスラム教から世界史をみる

佐藤 賢一 集英社文庫、2024年

イナ侵攻や、パレスチナ問題を深く理解するためにも、これら同根の一神教をわかりやすく解説しよう、として書かれたのが本書だ。

古代のユダヤ教の誕生から、キリスト教の成立、イスラム教の誕生までの歴史を綴ったのが第一部。地理的・歴史的に明快に説明されているので、学校の世界史の補強にもなる。ユダヤ教はなぜ世界宗教にならなかったのか。そこから発生したキリスト教が、世界各地に広まっていき、むしろ欧米の宗教というイメージになったのはなぜか。現在のイスラエルが、イスラエルという地にこだわるのはなぜか、ということなどがすらすらと理解で

きるだろう。

続く第二部が中世、そして第三部で近代・現代と分けられて、一神教が時間軸に沿って世界史の観点から解き明かされる。教義のややこしい解説はないから、たとえば、キリスト教がイスラム教を排斥するだけではなく、その内部においてもなぜ異端と正系を巡って激しい対立があるのか、などということがむしろはっきりするのではないだろうか。

著者は、東北大学大学院博士課程まで仏文研究をした知識を活かし、中世／近世のヨーロッパを舞台とした歴史物を中心に数多く書いている小説家。手慣れた文章で、タイトル通り、ほとんど知識のないものにも実によくわかるように書かれている。ただ、わかりやすいだけに逆に、宗教というものの本質に迫るにはほど遠いし、本書の任ではない。世界史や現代の出来事をもっと理解しようとしていく人には、手に取りやすく良き入り口になるに違いない。

宇宙人はいるだろうか？ 生命が存在するのに必要な条件やら、星の環境やら、宇宙にはどのくらいの星があるかの推定から、ともかく、宇宙人がいるかどうかということについて客観的に考えて、検討することはできる。では、神はいるだろうか？ これは、検討することができない。なぜなら、神とか魂というのは物質ではないので、想像することはできても、客観的に、つまり万人に共通する言葉で検討することはできないからだ。科学的に神がいるともいないとも検証できないから、科学は対象として神を扱わない。神がいるかどうか、というのは、その人が信じるか、信じないかだけなのだ。

だから、信仰については、害がなければ人それぞれでいいのではないかというものだろうが、宗教というのはそう一筋縄にはいかない。人間社会の歴史を振り返ってみても、宗教対立によって戦争まで引き起こされているし、現在でも宗教を理由とした差別や排斥、紛争もある。

民族というのは定義が難しいが、分類指標のひとつに宗教が挙げられたり、宗教がその集団のものと考え方や習慣、文化と呼ばれるものの根底をなすこともある。したがって、他文化や歴史、現在の世界で起こっているさまざまな事柄を理解する上で、宗教の知識はあったほうがいい、というより持っておくべきだ。

ユダヤ教、キリスト教、イスラム教は、すべて同じ唯一神を信仰している。にもかかわらず、全く相容れないものとして対立し、ときには戦争の理由のひとつにまでなってきた。現在のロシアのウクラ

# 杜の都の西北から

第6回

(学)東北文化学園大学評議員・  
大学事務局長、弊誌編集委員

小松 悌厚さん

## Profile

1989年東京学芸大修士課程修了、同年文部省入省、99年在韓日本大使館、02年文科省大臣官房専門官、初等中等教育局企画官、国立教育政策研究所センター長、総合教育政策局課長等を経て22年退官、この間京都大学総務部長、東京学芸大学参事役、北陸先端大学副学長・理事、国立青少年教育機構理事等を歴任、現在に至る。神奈川県立相模原高等学校出身。



大学等における性指向や性自認に関するマイノリティ(性的マイノリティ)学生に対する国の施策の動向について概観する。マイノリティは、貧困、障がい、発達特性、外国ルーツなどによる社会的少数集団である。マイノリティは、社会的排除の対象となるなど不当な扱いや不利益を被るリスクに直面している。その中でも性的マイノリティは、青年期から孤立や孤独を感じたり、差別、偏見によるリスクを抱えていることが多い。認定NPO法人ReBitが2022年に行った調査によると、十代の性的マイノリティの自殺念慮が全体よりも3.8倍も高かったという\*1。こうしたデータは当事者である若者が生きづらさを感じていることの証左であり、大学等が当事者である学生を支援し環境を整える必要性を物語っている。

性的マイノリティの学生に対する大学等の支援については、国の施策に先んじて、国際基督教大学(ICU)などが先駆的な取り組みに着手している。また、総合大学などにおいても支援体制の整備

## 進むか、大学の性的マイノリティ支援

等を進めている。こうした中、政府は、2018年に大学等教職員向けの啓発資料として、独立行政法人日本学生支援機構による「大学等における性的指向・性自認の多様な在り方の理解増進に向けて」をとりまとめ公表した。この資料は、大学等が取り組むべき方策として、①学長や副学長等の下で、実効性・機動性を有する組織を立ち上げ、その組織が検討・実行の役割を中心的に担うこと、②各大学等の建学の理念や特色を考慮しながら、自らの基本理念を掲げ主体的に取り組むこと、③基本理念に沿って各場面に必要となる対応等を明示すること、④専門的な人材を配置した相談窓口等の体制を整備し情報共有等を図ること、⑤雰囲気醸成、アウトティング(当事者の意思に反する暴露)対応、個々の教員・担当者との調整、高等学校との連携などの役割も必要であること、等が具体的に例示されており、大学が取り組みを進める上での参考となっている。

さらに、2023年6月には、「性的指向及びジェンダーアイデンティティの多様性に関する国民の理解の増進に関する法律」(理解増進法)が公布された\*2。

理解増進法は、国としての「基本理念」を明示し規定している(3条)。基本理念の概略は、①全ての国民が、等しく基本的

人権を享有するかけがえのない個人として尊重されるという理念にのっとり関連施策が行われるべきこと、②相互に人格と個性を尊重し合いながら共生する社会の実現に資することを旨として関連施策が行われるべきこと、③性的指向及び性自認を理由とする不当な差別はあってはならないものであるとの認識の下で関連施策が行われなければならないこと、である。

理解増進法にはさらに、基本理念に基づく国・地方公共団体、事業主、学校に求められる役割等が明らかにされている(4～12条)。理解増進法が求める国の役割のうち、推進体制の整備、学術研究の推進、基本理念に基づく基本計画等の策定、施策の実施状況の公表等については政府の義務となっている。なお、本法は大学等(幼稚園等を除く)に求められる役割について規定している\*3。大学等の設置者に対しては、性的指向及び性自認の多様性に関する学生等の理解の増進に関し、教育又は啓発、教育環境の整備、相談の機会の確保等を行うことにより、性的指向及び性自認の多様性に関する学生等の理解の増進に自ら努めるとともに国や地方公共団体が行う理解増進策に協力すべきことを規定する。さらに、設置者及び大学等に対しては、学生等が

性的指向及び性自認の多様性に関する理解を深めるために、教育又は啓発、教育環境に関する相談体制の整備その他の必要な措置を講ずべきことを求めている((6条③、10条③)。

同法は政府に対して、基本理念の総合的かつ計画的な推進を図るための基本計画の策定を求めている(8条)。現在、政府において基本計画の検討が進められているという。こんご基本計画が策定され、大学等が取り組むべき施策の方向性がより詳細に示されることで、大学等における、性的マイノリティの学生支援の取組が一層加速されることが期待される。法律がめざす「包括的な共生社会」に向かっていくことを期待したい。

\*1 認定NPO法人ReBit「LGBTQ子ども・若者調査2022」についてHPで公表されている調査結果による。

同法人はGBTQの子ども・若者の支援をしている団体で2022年9月4日から9月30日までの間、LGBTQなどのセクシュアル・マイノリティの子ども・若者の、学校・暮らし・就活等の現状に係るアンケート調査を実施し、本件引用を含む調査結果を分析し公表している。(本調査の有効回答は2623人)

\*2 理解増進法制定以前は、性的マイノリティに関する包括法がなかったため、当事者団体、支援団体、学術団体、法曹界等が新法の制定等を求めてきた。当初の超党派の国会議員による法案作成から最終的な法律となるまでの過程等で曲折があったが、本稿では、理解増進法が制定されたことの意義に着目しその内容を概観することに主眼を置くこととする。なお、本法の規定は施行後3年を目途として、その時の状況等を勘案し検討を加え、その結果に基づき必要な措置が講ぜられることになっている。(附則2条)

\*3 理解増進法の条文では大学を含めて「学校」、学生を含めて「児童等」と規定しているが、本稿ではそれぞれ「大学等」「学生等」と称することとした。

### 16歳からの 大学論

第41回

## 高校生と研究ポスターを 作っていて気づいたこと

京都大学 学際融合教育研究推進センター 准教授  
宮野 公樹先生

## Profile

1973年石川県生まれ。2010～14年に文部科学省研究振興局学術調査官も兼任。2011～2014年総長学事補佐。専門は学問論、大学論、政策科学。南部陽一郎研究奨励賞、日本金属学会論文賞他。著書に「研究を深める5つの問い」(講談社)など。

今年も「日経STEAM」(日経新聞主催)というイベントのアドバイザーをすることとなり、7月末の研究ポスター発表大会に向けて、今、全国で15校の高校生グループたちと意見交換しております。今回、その過程で気づいたこと、特に、研究テーマ設定段階で気をつけてほしいことがあるので、記載してみます。

もちろん、限られた人数で限られた回数の打ち合わせしかできていませんので、下記の考えを一般化するつもりはありません。筆者自身が体験した感想としてお読みください。

#### ○もっと手を使って考えて!

研究テーマを複数人で考える際、「あれって大事だね」「あれはどうなんだろう…」とあれこれ話するのはいいのですが、各自がその時々感じたこと、感情や思いつきに留まっている感じがあります。もっと厳しくいうなら研究テーマが「妄想どまり」なんです。研究者がテーマを考えると、調査や実験、あるいは自身の体験など、膨大な経験をもとにします。それを高校生に求めるのは酷なことですが、せめて

Google等検索サイトで調べながらプレストをしてはどうでしょうか。みなさんが考えているテーマと似たようなものを探し比較することで、みなさん自身の切り口、視点を浮かび上がらせるのです。ホワイトボードなどに書き込みながら話すことも有効です。そうしないと、話が堂々巡りになりがち。僕に送ってくる質問メールの文章を読めばすぐにわかりますよ、これ、ちゃんと考えてないな、思いつきのレベルだなんて。しっかりと議論を可視化すれば、「これは本当かな?」「他にも重要な要素ないかな…」など色々気づきがでてくるはずですよ。

#### ○「褒められること」より「心からやりたい」と!

確かに社会は課題だらけ…解決しないといけないことは多いですが、それに取り組むのは「課題解決」であって、本来の「探究」ではありません。探究学習においては、何かを解決することがラストではないですよ。自分たちの好きを追い求めればいいのです。テーマを考えるときには、まず「問題」から入らないで「関心」から入ってください。みなさんが、気に

なってしまうこと、大好きで仕方ないこと、それらに強い関心があるからこそ気づく「不思議」について深堀りすることが探究なのです。

もちろん課題解決は大事なことです。みなさんが、それに注力することはとても大切なのですが、以下のポイントにおいて難しい側面もあるのです。

#### ○テーマの設定の範囲をバグらせないで!

例えば、シャッター街となった商店街を何とかするといったテーマ。これは、はっきり言ってしまえば、市役所等行政やその地域の住民の方々の仕事(役目)です。それをみなさんが課題にする理由はどこにあるのでしょうか。もちろん、しっかり現状を調査し、その上で行政のやり方に欠点があり、生活者目線からいうともっとこういうことが大事だと思う!という切り口であればいいのですが、単に「…が問題。そこでわたしたちは…を提案します」というのでは、テーマ設定としてはあまりに素朴です。研究テーマの設定にあたっては、自分たちができること、自分たちがやる意味を踏まえな

いと、結果は絵に描いた餅になってしまいます。他にも、「海洋のマイクロプラスチック問題について、私達は…という研究をします」といったあまりにも広大なテーマも違和感があります。それは、全世界の行政、または企業が何十億もかけて実施していることであり、高校生のみなさんが太刀打ちできることではないように思います。繰り返しますが、徹底的に調べて「いや、やはりこのやり方は根本的に間違ってる!私達はその一点について、こうやったら良いと思う!その具体案を提案する」というのはアリですよ。しかしそうではなく、ただ重要な課題だからといって自分たちができないこと、責任もとれないことをあれこれ考えても、それは机上の空論になりがちですし、なによりみなさん自身もその研究テーマに熱が入りにくいのではないのでしょうか。

以上、探究学習に関係した研究ポスターのテーマ設定について思ったことを述べました。探究については、今年3月に現代思想(2024Vol.52-5 p.108-115)に論考を掲載したので、もしよければお読みください。(続く)

## 高等学校「探究」の現場から その3

## 高校における「研究倫理」指導

秋田県立秋田高校 教諭  
博士(生命科学)  
遠藤 金吾さん



## Profile

東北大学農学部卒業。東北大学大学院生命科学研究所博士課程前期・後期修了(博士(生命科学)取得)。東北大学加齢医学研究所科学技術振興研究員を経て、2008年より、秋田県の博士号教員。2016年より、現任校(秋田県立秋田高等学校)に勤務。専門は「DNA修復と突然変異生成機構」。埼玉県立川越高等学校出身。

研究の世界では「研究不正」が起こることがあり、ニュースとして一般にも報道されることもあります。「研究不正」を起こさないために、全国の大学では研究倫理に関する教育が行われています。昨今の高校では、大学で言うところの「研究」に相当する「探究活動」が盛んに行われています。では、高校における「研究倫理教育」はどのように行われているのでしょうか。筆者の実践を交えながら紹介します。

## 高校「理数科」における「探究」

筆者の勤務校には「理数科」という学科が設置されています。「科学的、数学的な能力を高め、思考力をもつ人材を育成すること、探究的な活動を通して、専門的な知識や表現力等の育成を行い、医師や研究者、技術者など、専門的な知識・技能を生かして社会に貢献できる人材を育成すること」を設置目的とした学科です(第七次秋田県高等学校総合整備計画)。原則として「理数探究」を全生徒に履修させるものとされており、筆者の勤務校でも2年次に設定されています。高校で実施する教育活動の内容は「学習指導要領」に細かく定められており、「理数探究」「理数探究基礎」については文部科学省から平成30年に学習指導要領が告示されています。

「理数探究」を含む「理数」の学習指導要領解説は実に50ページ以上にわたりますが、「理数探究」で実施する内容を抜粋すると次の通りです。

- ・個人又はグループで課題を設定して主体的に探究を行い、その成果などをまとめて発表させる。
- ・課題は数学や理科などに関するものを中心に設定させ、探究の手法としては数学又は理科に基づくことが必要である。
- ・中間発表を行うなど、途中段階での進捗を確認しながら粘り強く取り組ませることが重要である。さらに、探究した成果やその過程を報告書等にまとめさせることが求められる。

そして、学習指導要領解説の中では、「内容の取扱いに当たっての配慮事項」として次のような記載があります。

高校生として配慮する研究倫理として、次のようなものが考えられる。

- ・探究の過程における不正な行為
- ・探究の過程における人権侵害

## 探究の過程における不正な行為について

学習指導要領解説には、「研究活動における不正行為とは、データや研究結果などの『ねつ造』、『改ざん』、『盗用』などがある」と記載されています。

問題①: やり忘れた実験結果を、他の実験区のデータをもとに予想される値を算出し、結果の表に追記した。

問題②: 顕微鏡写真を撮影したところ、ゴミのようなものが見えたので、見栄えを良くするために背景部分をコピーして消去した。

問題③: 自分の研究と似た研究成果をインターネット上で発見し、発表会のスライドに、出典を明示した上で写真1枚と文章を1文貼り付けた。

問題④: 実験結果にばらつきがあったので、明らかにおかしそうだった数値を除外して平均値を算出した。

これらは勤務校の「研究倫理セミナー」の中で出題したクイズです。読者の皆さんも考えてみて下さい。このようなクイズに答えながら、「どこまでは是でどこからが非か」ということを生徒たちは学んでいきます。なかなか難しいのは問題④で、「外れ値は自分の感性に従って除去して良い」と考えてしまう生徒が意外と多いものです。科学的に判断するためには

統計的な知識も必要になります。学習指導要領には「観察、実験、調査等の手法や統計処理の方法などを含んだ探究を遂行する上で必要な知識及び技能を身に付けさせる」とも示されていて、勤務校では「統計処理講座」も実施しています。

学習指導要領解説は次のようにも述べています。

これら(不正行為)を防ぐため、探究の過程において適宜研究倫理について意識させる場面を設け、信頼できる探究になっているかどうかを確認させることや、探究の過程においてできる限り記録を取り再現性や信頼性を確保させることなどが重要である。

大人の研究業界で「研究不正」が起きた際に、真偽を判断する情報源となるのは「研究ノート」です。全国の大学の研究室で「不正を疑われないための記録(ノート作成)」の作法についてはみっちり

と学生に対して指導が行われています。研究ノートは、後から研究の過程を振り返ることができる「研究者の日記」であると同時に、不正行為を疑われないようにするための「証明書」でもあり、とても重要です。研究室ごとに流儀は多少異なりますが、

- ・付け足しも削除もしていない新品のノートを用意(ルーズリーフ不可)。
- ・消しゴムで消せないようにペンで記載。
- ・修正液は元の記述がわからなくなるから使用不可。
- ・書き損じのときは、元の記述がわかるように二重線で修正。
- ・グラフや写真は糊で貼る。セロハンテープは剥がせるので使用不可。

ということを、大学で卒業研究を経験した方は指導教員から教え込まれたのではないのでしょうか。高校の探究でも同じことを指導しています。

## 探究の過程における人権侵害・その他について

学習指導要領解説には、「個人情報の不適切な扱い等による人権侵害が起こらないよう十分な配慮が必要である」と記載されています。

では、ここで再びクイズです。

問題⑤: 自作の石鹸をクラスの友達に試してもらったが、身近な材料を使ったので危険性は無いと思い、材料や危険性に関しては特に説明しなかった。

問題⑥: 誕生日と100m走の記録との関係を調べるために、アンケート調査を行った。氏名・誕生日・100m走の記録欄だけを記したアンケートフォームをweb上に設置した。

問題⑤は、安全上の問題に関する説明責任を果たしていません。問題⑥とも関わってくるのですが、ヒトを対象とした研究は、被験者に対して十分な説明が求められます。昨今、GIGAスクール構想による1人1台端末の配備と校内のネットワークの整備により、webツールを用いてアンケートを配布し、集計することが簡単にできる時代になりました。高校生は安易に「〇〇に関する意識調査」というような研究を実施しがちです。読者の中で、大学の研究者としてアンケート調査を行ったことがある方、高校の先生で大学からのアンケート調査を請け負ったことがある方は、依頼文書はどうあるべきかということをご存じか

と思います。

- ・目的や方法など、どんな研究に用いる内容なのか。
- ・参加者には利益や不利益があるのか。
- ・謝礼はあるのか。
- ・調査結果をどのように利用するのか。学術研究目的で発表に使う可能性があるのか。その場合、成果の権利はどこに帰属するのか。
- ・得た情報は、どのように管理するのか。
- ・学内の倫理委員会(高校の場合は「理数科」「探究活動委員会」などの教職員組織)の審査を経ているか。
- ・研究の責任者は誰なのか。

これらのことを、事前に被験者に示し、同意を得ることが研究業界では求められますが、冒頭の学習指導要領解説の記述はこのことを示しています。

動物実験に関する配慮も学習指導要領は示しています。一般財団法人公正研究推進協会「中等教育における研究倫理:基礎編」という教材では、「動物実験の3Rの原則」として、

- ①できるだけ脊椎動物を使わず、昆虫や微生物で代替(Replace)。
  - ②用いる個体の数を減らす(Reduce)。
  - ③与える痛みや苦痛を最小限に抑える(Refine)。
- が掲載されています。生命科学系の大学では必ず指導する内容ですが、同じことを高校でも指導しています。ヒトや動物を対象とした実験に関する倫理規定は、海外の高校生のコンテスト、例えば「ISEF(International Science and Engineering Fair)」では非常に厳しく定められていますが、日本国内の高校の現場にはまだまだ浸透しきっていないのが現実です。

## 最後に

ここまで、「理数科」で実施している研究倫理教育を紹介してきました。大学の先生方は、「今の高校ではここまで指導しているのか」と驚かれたのではないのでしょうか。では、「普通科」はどうでしょうか。現在、全国の普通科高校では必修科目として「総合的な探究の時間」が実施されています。現在の「総合的な探究の時間」の学習指導要領には研究倫理に関する記述はありません。しかし、筆者の勤務校では「どんな分野の研究でも大切なこと」「普通科の生徒も、大学で卒業研究に取り組むための」ということで普通科においても研究倫理教育を実施しています。本稿を読んでいただいた高校の先生方の参考になればと思います。

※本稿の実践内容の詳細は、筆者が共同執筆した「学校教育の未来を切り拓く 探究学習のすべて:PC×Rサイクルによる指導原理と評価法」(環境探究学研究会(著)・合同出版)に掲載しています。

## 安河内先生から受験生への提案



安河内 哲也  
情報経営  
イノベーション学部  
客員教授

## Profile

上智大学外国語学部英語学科卒業。一般財団法人実用英語推進機構代表理事、東進ハイスクール・東進ビジネススクール英語科講師、学校法人麹町学園女子英語科特別顧問、福岡県遠賀郡岡垣町英語教育アドバイザー、ふるさと大使、情報経営イノベーション専門職大学客員教授。ICEE(国際コミュニケーション能力検定)2014年優勝、2016年準優勝、2018年優勝。

## AIを使って今までの3倍のタイパで突破しよう!

生成AI時代を生きる今の受験生のみならず、私からの大胆な提案です。

今後、生成AIが学習のあり方を変えるのは間違いありませんが、それに合わせて大学受験問題が変わるのはおそらくは先のこと。

入試問題が従来通りなら、これまでは紙と鉛筆と動画を使って100時間かけて突破していたものを、今度は生成AIを使ってタイパを極限まで改善し、30時間で突破する方法を開発してはどうでしょう。この経験は、受験勉強だけでなく、将来あらゆることに必ず役立ちます。実際、私が教えている超難関クラスの生徒は、すでに生成AIを日頃の勉強に使っています。特に英語では顕著で、英作文などは、冗談でなく5倍速で習得できます。脳にブースターがついたようです。逆に使っていない人はこれまで通り亀の歩みのままです。AIを使うか使わないかで相当な差が出てきています。

## 教える側も変わらなければ

私自身も含め、教える側にも対応が迫られています。

自分でコマンドを打って、コンピュータを動かしていた時代からグラフィックインターフェイスとスマホの時代へ、そしてついに自然言語でAIを動かせる時代へと進化しました。一部の理系人材にしか操作できなかったAIが、言葉が書ける人なら全員に開放されたわけです。僕でもアプリが作れ、教材作成なども一瞬でできる。これにはwindowsやスマホの出現同様のインパクトがあると思います。

学ぶ側の頭脳も、生成AIを使えば、世界最高の頭脳が自分の脳にインストールされているのと同じ状態になる。だから語学教育だけでなく、すべての教育に無視できないものになってくると思います。馬車が自動車になった時、それを否定してもどうしようもなかったように、この流れには抗えないと思います。

さらに、これまでの知識伝達型の授業が動画に移行しつつあるということもあります。YouTubeの他、今は書籍にQRコードが付いている、スマホをかざすだけで様々な説明を見ることが出来ます。莫大な予算をかけ、競争原理のもとで作られた動画と競争してもなかなか勝てない。だからこれらの流れには抗わないで、生成AIや動画でできることはそれらに任せ、人と人をつないでコミュニケーションさせるなどの、人にしかできないような教育に転換を図らなければならないと思っています。学校や大学の役割が問われてきていると思います。

## 次号予告 生成AIの登場と大学・高校の英語教育



2022年11月末にChatGPTが公開されてから、すでに1年半が過ぎた。この間にも生成AIが提供するサービスは、今年5月に新バージョン・GPT-4omniが公開されるなど、機能性・精度面で向上し続けている。やがてくるであろうAI時代に備えて、教育現場での対応は待たないで、現状は手探りで知見を積み重ねている状況だ。言語を出力する

生成AIは、特に英語教育と親和性が高い。英語教育の方法を根本的に変革させるだけでなく、英語教育の意義をも変えてしまうほどの可能性を秘めている。

金丸先生は、京都大学の全学英語カリキュラムの改定・実施に携わってこられた。一方の南部先生は、育休中に生成AIと出会い衝撃を受け、その後の実践を昨年「ChatGPT×教師の仕事」(明治図書)として出版した(写真は新刊)。教育現場で蓄積されたAI活用のノウハウや、また言語を出力するAIの実際の挙動をも踏まえ、英語教育の方法論、さらにはその意義、果ては日本の新たな国際化に至るまで、生成AIと高校・大学の英語教育について様々な観点から語り尽くす。



これまでの大学とは違うけど、キラリと光る大学 第1回

iU情報経営イノベーション専門職大学

# 大学の新しい形を求めて



1期生卒業記念特別対談  
於:墨田キャンパス

情報経営イノベーション学部  
阿部川 久広 学部長

VS 安河内 哲也 客員教授

## 大学英語教育を刷新

ともに英語教育をご担当のお二人の会話は、いきなり生成AIと英語教育の話題から始まった。

**安河内:** 英語教育は今、生成AIの出現により大きく変わろうとしている。その影響を最も受けそうなのが大学英語教育だ。ここで私は、「AI時代に備えて、言語の学び方を変えよう。特にiUの学生は、起業してビジネスを成功させることが目標であって、就職のためにマークシートテストで点数を上げる必要はないのだから、AIをフル活用する方法を学ぼう」と。

**阿部川:** 人間の代わりにできるようにと開発されてきたコンピュータが、生成AIを搭載することで能力が極限まで高まりつつある。英語なら単語や文法だけでなく構文でも、膨大な情報を収集、分析して標準的な解釈や使い方を提案してくれる。人間に求められるのはアウトプットやコミュニケーション分野の教育に絞られてくる。

**安河内:** コミュニケーションで言えば、エモーションに訴えかけて相手の心をつかむ会話力育成などはその一つ。日本は今、人口が急激に減っている。起業家がインドやアフリカ、東南アジアなど人口が増加傾向にある市場に打って出ることを視野に、彼らの心をつかむ英語コミュニケーション力を鍛えてもらっている。

**阿部川:** 私も英語を勉強するというよりツールにして、グローバルビジネスに求められる力を身に付けてもらえるように講義を工夫している。1、2年生ではビジネスプランやその改善策のピッチ、3年生ではディベート、というより良いアイデアを出すためのディスカッションを、そして4年生ではプレゼンテーションやネゴシエーションをといった具合だ。ブレインストーミングなどは英語の方がやりやすいし、そのまま世界中で使える。

**安河内:** 拝見していると、私が研修を担当している、あるグローバル企業の研修とすごくよく似ています。そこではある国への進出に先立って現地企業相手のビジネスプランのピッチを、社員全員が1年ぐらいかけてやる。

**阿部川:** こういう機会を提供するのが、大学の英語教育の基本的なスタンスであるべきではないかと思っている。

**安河内:** もちろん、アウトプットに必要なインプットは、最低限中学、できれば高校の範囲までしっかりとやる。

**阿部川:** 「中学校英語くらいしかできないし喋れない」と言う学生には、それで十分だと言っている(笑)。

**安河内:** 確かに生成AIを使えば後はなんとかなる。難関大学の入試問題や各種の資格試験を解かせると、人間よりもはるかによくできる。これまで理系人材にしか操作できなかったAI

が自然言語で動かせるまでに進化してきた今、語学教育を含め、教育は変わらなければならない。怖がるより使ったほうがいいし、上手に効率よく使う術を学ぶ方がいいと思っている。

**阿部川:** 「答は何ですか?」ではなく、「どうやったら答えが出そうかな」を学ぶのですね。もちろんそのためにはある程度の知識は要る。

**安河内:** 他の教科でも、中学生ぐらいまでは知識を吸収し基礎力を固める従来型の教育は重要だ。高校生ぐらいになったら積極的に生成AIを活用してみたいと思う。

## 大学発ベンチャー増加率2年連続日本一 起業はもちろん、就職にも強く実績は97.5%

「全員起業」「就職率0%」、「失敗大学」などユニークなキャッチフレーズやネーミングを掲げるiUだが、一期生の出口としては有名企業も多かった。

**阿部川:** 一期生で就職せずに起業したのは全体の10%。他大学はどこでも1%未満という数字だから、iUはとて高い。経産省の2023年度の大学発ベンチャー実態調査で、iUは起業率1位、起業増加率1位、起業数も全国6位。中でも増加率は2年連続1位だった【右上表】。

**安河内:** 起業には、在学中や卒業直後にするものだけでなく、何年か働いて組織のあり方や動かし方を学んでからというパターンもある。

**阿部川:** 私自身は38歳で、様々な経験をして自信をつけてから起業した。

**安河内:** 成功している起業家にも官僚やビジネス経験者は多い。学生時代に起業の仕方を覚えておけば、就職しても普通のサラリーマンにはならない。反対にこのことが高い就職実績につながっているのかもしれない。

## 心配したインターンも、軽々とクリア

**阿部川:** 就職した学生の就職先のうち、多くが連携企業や実習先企業だった。産業界との連携を重視する専門職大学は、20単位以上を、本学でインターンと呼ぶ企業等での長期実習(臨地実務実習)や、「イノベーションプロジェクト」と呼ばれる演習、実習形式の授業が占める。一般的に就活を始める3年次に配当されていて、考えようによっては不安がないわけではなかった。しかし起業を目指している学生は企業からの評価も高くなる。

**安河内:** 入社後に経営サイドにいろいろな提案もできる。伝統的な日本企業ではあまり好まれないようだが、世界的にはこういう新入社員が尊ばれる。

**阿部川:** 日本企業で合わなければ外資に行けばいい。

**安河内:** 転職サイトを活用してスキルアップもできる。

## グローバルコミュニケーション×ビジネス×ICTの学びの3本柱で、グローバルにイノベーションを起こせる人材を育てる

### 在学中は、全員に起業のチャンスが

2019年、日本の大学の新しい形をと55年ぶりに新設された専門職大学。専門学校、大学それぞれの長所を取り入れ、日本の大学改革に一石を投じるのが目的だ。2020年に開設されたiU情報経営イノベーション専門職大学もその一つ。2024年春には「変化を楽しみ、自ら学び、革新を創造する」の教育理念の下、未来を先取りしたカリキュラムと教育で、一期生142名を社会へ送り出した。アップル、ディズニーに勤め、CNNキャスターでもあった阿部川先生と、新しい形の大学に大きな期待を寄せ、開学当初年から客員教授を務める大学受験界のカリスマ英語講師安河内先生のお二人に、教育とiUの未来について語っていただいた。

起業率1位、増加率は2年連続1位

順位	大学名	起業率(%)	2023年度ベンチャー実態調査(2022年度)	学生数(人)
1	iU	4.17	31	744
2	東京経済大学	0.82	12	1,466
3	宇都宮大学	0.60	8	1,133
4	AIC大学	0.42	16	14,980
5	東洋大学	0.36	10	14,122
6	近畿大学	0.36	10	13,194
7	明治大学	0.36	12	4,276
8	慶応義塾大学	0.24	10	14,120
9	国際医療科学大学	0.22	2	516
10	筑波大学	0.20	13	9,835

2023年度大学発ベンチャー実態調査の結果で、iUは起業率1位、起業増加率1位、起業数6位となりました(経済産業省調べ)。なかでも増加率は2年連続1位を誇っています。

iUは「在学中に全学生が仮設にチャレンジ」を目標に掲げています。学内にペパロップメイトやセーターを製造し、学生に様々な起業をサポートしています。

\*起業率: 卒業生/在籍生数



## 起業サポート体制が充実

**阿部川:** 花形授業である『イノベーションプロジェクト』に加え、課外では、起業の仕方とベンチャーマインドを、セッション、実践、メンタリングを通じて学べる『アクセラレーションプログラム』がある。また資金面でのサポートでは、iU生のためのベンチャーキャピタル株式会社と、iU生を含むZ世代のスタートアップ起業家のための合同会社iU Z investmentの2社がある。上記3つがすべて揃っているのは、国内の大学では唯一ではないか。

## 《好きを学んで卒業できる大学》にさらに近づきたい

### 2025年度から新たなカリキュラム改革が始まる?

**阿部川:** まずは一方的な知識伝達型の授業を、最低限必要なものに絞り、他は学生が自由に選べたり、教員からアドバイスをもらえるラボ制度にしたり、またVODなどで講義が受けられるように将来はしたい。安河内先生のような客員が1100名以上、また研究機構のBlab<sup>※</sup>では1200名の研究員がおられるから、その中から教材作成に協力してくださる方を募る。

**安河内:** はい、喜んで。

**阿部川:** そして教室では、討論や英語でプレゼンするなど、集団ならではの授業に注力したい。また起業には、今の段階ではAIに頼るより、プロジェクトベースで仲間と一緒に議論するほうがずっと良い。せっかくキャンパスがあり仲間がいるんだから。

もう一つは、各教員が専門性や得意分野を活かしたテーマを中心に据えた《コース》を作って、好きなことを一生懸命追求することが卒業につながるようにしたい。第一弾がeスポーツ。4月には学生が教員と一緒にiU eスポーツ株式会社を起業し、eスポーツルームもオープンした【右上写真】。プレイヤー、コーチ、配信、大会運営など、eスポーツのあらゆる分野でのビジネス展開を目指す。それも先行する海外を視野に入れて。

**安河内:** スマホでゲームを消費して課金される側ではなく、パソコンを使って課金する側に回ると。

**阿部川:** はい。こういうのがおそらく、あと20くらいいろんな分野からでてくる。例えばオタク学とか失敗学とか、初音ミクなどのボーカロイドについてとか。僕がやろうとしているのはグローバルマネージメント、グローバ

ルマーケティング、そして企業戦略とアートです。

※大学・研究所、企業、行政、地域、個人を巻き込んだオープンな参加型研究プラットフォーム

## 失敗を恐れない

最後にお二人から、iUを目指す高校生にメッセージをいただきました。

**阿部川:** やりたいことが決まっている人にはとても楽しいところです。もちろんやりたいことが決まってない人も、いろんなタレントを持った仲間と一緒にワイワイ話しているうちに、「自分もこれなら」と、起業家マインドが目覚めるかもしれない。

**安河内:** 客観的に見てすごくいいところは、時代に合った教育が受けられ、時代の先を見ている仲間と一緒に学べること。そのうえビジネスも一緒にできる。ゲーマーやプログラミングのできる人間と、ピッチがうまい人間が組めば最強のチームになる。

一方で、高校時代から、何事も先生任せの人にはつらいかもしれない。

**阿部川:** 朝来て、さあ、今日何が起こるのかと待っていても何も起こらないから。

**安河内:** 確かに大学の高校化が進んでそういう子も多いかもしれない。

**阿部川:** どんどん画一化もしている。

**安河内:** 何事も失敗しないようにと、自分できなかな決められない。これではイノベーションは起こりにくい。

**阿部川:** 私は、新入生で失敗を怖がる子には、《ここは失敗大学》でもあるから、恐れずやってみればいいと言っている。

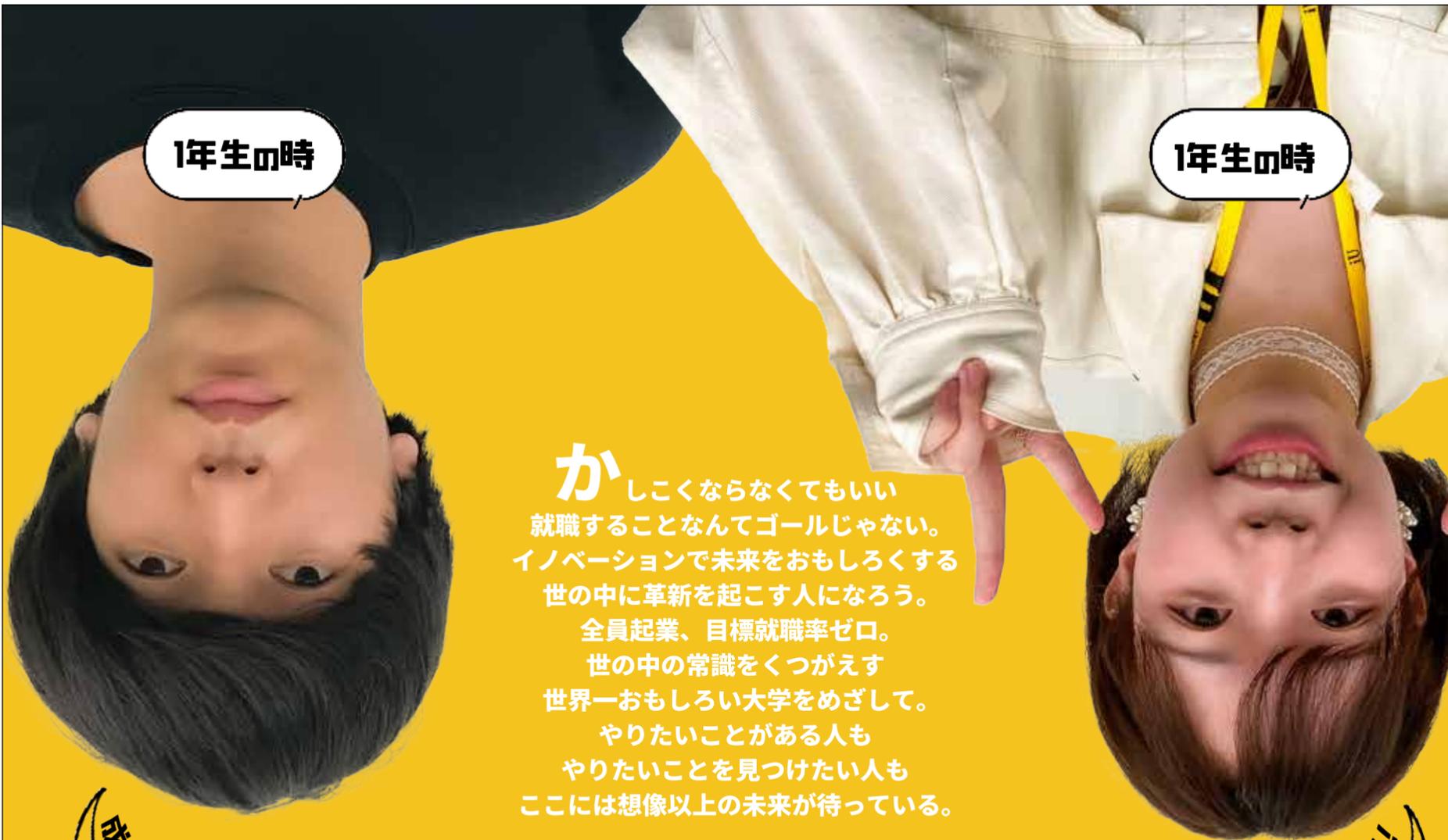
**安河内:** 今は起業のハードルが下がっていますからね。それに大学発ベンチャーは制度的にリスクが少ない。

**阿部川:** やってみてダメなら止めればいい。そういう経験は大学時代にするのがいい。僕らの時代にこういう大学があったらと思いますよ。

**安河内:** こんな風潮の一方で、通信制高校へ進学する生徒が増えている。学校で同じことを学び、一律に偏差値ランキングで進路を決められることに疑問を持つ、あるいは既存のルールに乗って大学へ進学して30年後は大丈夫かと考える若者だ。

**阿部川:** iUにもそういう子がたくさん入ってほしい。

**安河内:** 大学も高校も変わらなければならない節目が訪れているのかもしれない。



**か**しこくならなくてもいい  
就職することなんてゴールじゃない。  
イノベーションで未来をおもしろくする  
世の中に革新を起こす人になろう。  
全員起業、目標就職率ゼロ。  
世の中の常識をくつがえす  
世界一おもしろい大学をめざして。  
やりたいことがある人も  
やりたいことを見つけたい人も  
ここには想像以上の未来が待っている。

# それ、あたらしい？ それ、おもしろい？



**iU**は、「ビジネス」「ICT」「グローバルコミュニケーション」の3つを学びの柱として、世の中にイノベーションを起こす人材を育成していきます。

データ活用やデジタル技術の進化によって産業界に変化が起きつつあり、生活のあらゆる面でICTが不可欠になり生成AIなどの技術で解決できる問題が増えてくることで、人間は新しい技術、「あたらしい」ビジネスや「おもしろい」サービスを生み出すことが求められるようになりました。

iUでは、ビジネス現場に必要な基本的知識と技術を身に付け、長期インターンシップや起業チャレンジなどの実践的な経験を通じて、それらのスキルを実社会で活かす力を養うカリキュラムを用意しています。

720を超える幅広い業種の企業・団体と連携し、640時間のインターンシップ(長期の企業内実習)の受入れ、実務家教員の派遣、起業支援、リソースの提供。その他にも、新たな商品、サービス、コンテンツ等を開発する共同プロジェクト、地域や企業が抱える課題に対して、学生がICTを手段として解決していくケーススタディやフィールドワーク等を数多く展開！

iUで「ビジネス」「ICT」「グローバルコミュニケーション」を学ぶことで、あらゆる分野のビジネスパーソンとして活躍できることはもちろん、新規事業やサービスを立案・提案できる人材や、自ら起業し新たなサービス・ビジネスを生み出し、国際社会と地域社会の産業発展に貢献する人材、さらにはデジタル社会をリードする人材を輩出していきます。



大学発ベンチャー  
起業率 &  
増加率 (2年連続)

**1位**

就職率  
(うち連携・実習先  
企業率 20.0%)

**97.5%**

柿澤 映杜さん

1年次、外部でインターンを開始。2年次、インターン継続。オープンキャンパススタッフとしても活躍！3年次、個人事業主に。そしてiU自治員会に加入。  
4年次、iUの同窓会組織立ち上げ、iUの起業塾に加入。

荒瀬 美穂子さん

1年次、外部でインターンを開始、学内ではオープンキャンパススタッフとして活躍。  
2年次、iU情報委員会委員長就任。オープンキャンパススタッフ統括にも抜擢！  
3年次、iU生が起業した企業のデザイナーに。4年次、様々なプロジェクト参画中！



**iU**

学校法人電子学園  
情報経営イノベーション専門職大学  
〒131-0044 東京都墨田区文花 1-18-13  
Tel 03-5655-1555 Fax 03-5655-1580

詳しくはWebへ▶  
<https://www.i-u.ac.jp/>

